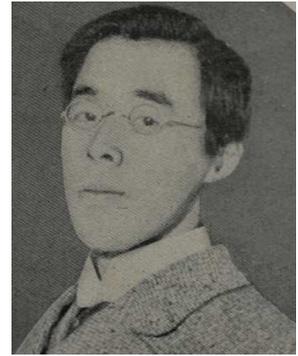


み と み き ゅ う よ う
三 富 朽 葉

* 明治22年8月14日 吉岐郡（現吉岐市）生まれ
* 大正6年8月2日 没（27歳）



「三富朽葉詩集」より

○ 略歴

- 明治29年 両親と共に東京に移る
（7歳）
- 明治35年 暁星中学校に入学
（13歳）
- 10代後半より文芸雑誌「ハガキ文学」「文庫」などに詩や短歌を投稿し、掲載される
- 明治40年 早稲田大学高等予科文学科に入学し、雑誌「深夜」発行
（18歳）
- 明治41年 早稲田大学英文科へ進学
（19歳）
- 明治42年 自由詩社を結び、パンフレット「自然と印象」を発行
（20歳）
- この頃からマラルメ、ランボー、ヴェルハーレンなどフランス近代詩人の影響を受けフランス象徴派詩人の研究や翻訳を行う
- 大正3年 散文詩「生活表」を「早稲田文学」に発表 口語散文詩の先駆といわれる
（25歳）
- 大正6年 千葉県君ヶ浜で遭難死
翌年、同所に実父により「涙痕之碑」が建立される
- 大正15年 友人によって編まれた遺稿集「三富朽葉詩集」が発表される
- 昭和42年 五十年忌に故郷の吉岐郡（現吉岐市）郷ノ浦町弁天崎公園に「雨の唄」の詩碑が建立される
- 平成8年 吉岐文化ホール開館を機に、敷地内に「雨の唄」の詩碑が建立される